

木村莊八「牛肉店横場」(1932年、油彩、カンバス、公益財団法人北野美術館蔵)

油絵を評するにはふさわしくないかもしれない。けれども生家の牛肉店や下りする仲居の着物業と鏡に映る「LAGGER BEER」の文字の取り



なる。「東京繁昌記(隅田川兩岸一覽)」(1955年、墨、インク、紙、小杉放菴記念日光美術館蔵)

(文化部 窪田直子) 栄一郎、「希望のプロジェクト編著」(575円)

# 化

# 文

れまでに1万7000体は確認した。歩いた距離は9000<sup>+</sup>。全国を調べ尽くしたいと考えているので、まだ先は長い。

鍾馗さんは唐代の中国に実在した人物といわれている。難関の公務員試験である科学に挑んだが、いかつい風貌を理由に不合格となり、それを恥じて自死した。時の皇帝がこれを哀れんで手厚く葬ったところ、恩義に感じた鍾馗さんは後代、病に伏していた玄宗皇帝の夢に現れ、妖魔を退治したとか。以来、魔よけとして信仰を集めるようになった。

京都にお住まいの方なら、町を歩いていて「鍾馗さん」を見かけたことがあるかもしれない。いかめしい表情をしたひげ面の男をかたどった瓦の置物、よく小屋根に載っているあれだ。魔よけのためのもので、関西、特に京都でこれをまつる風習がある。京都の人は親しみを込めて「鍾馗さん」と呼んでいる。

すめなのは、祇園・宮川町の界わいだ。この辺りは鍾馗さんの数がとても多いのだ。

設置具合で変わる表情 どうやって見つければいいのか。それは簡単で、普段より少し視線を上げて歩けばいい。小屋根に目をやりながらゆっくり

では飽きてくるだろうって? いや、楽しみはこれから始まる。 切手収集家が珍しい切手を欲しがるように、鍾馗さんもレアものを見つけてるのが楽しいのである。大量生産品ではなくオータメードのもの、旧家の屋根に載った由緒ありげな鍾馗さんを発見

## 小屋根の鍾馗さん百面相

◇京の民家の守り神、今日も探して町歩き◇

小沢 正樹

れもご注意を。

少し慣れてきたら、今度は鍾馗さんの姿に注目してほしい。同じ形のものが多いのに気づくはず。それは同じ瓦屋さんが作っているから。鍾馗さんの多くは大量生産品なのだ。ただ同じ品でも、設置の具合で異なった表情を見せるのが面白い。それでも同じものばかり



京都市内に多い鍾馗さん。小屋根の上でよく見かける



したら、小躍りしたくなる。地図に所在を書き込んで、デジカメで写真を撮り。 もちろん他人の家にカメラを向けるのだから、家の人に声を掛け、許可

を得て撮影するのがマナーだ。「あれ、こんなのがうちの屋根にあったんや」と、その家の人が驚くことも。古い家だとそういうことがよくある。 鍾馗さんは京都に多いと述べたが、むしろ手びねりの珍しいものはほかの場所で発見することが多い。たとえば私は勝手に「八幡系」と名づけているのだが、滋賀県近江八幡市周辺地域には、名のある彫刻家の作品かと思いがうほどに精巧なものが見られる。百体百様の鍾馗さんをとててもここでは紹介しきれない。ご興味のある方は、ホームページ「鍾馗博物館」(http://www.ne.jp/asa/hi/yuhi/kite/index.html)を見いほご。

「おいおい、楽しんだけれど、社会人になって彼らに話ばかりせず、ちょっと日本を見たら、年1〜2ペースで開催しているか」と。年1〜2ペースで開催しているか。期会でのことだ。二期会に就職した私が30歳を長く過ごし、タリア・ミラリス話に終始して、日本を回っていると感づいている。私はそ

## 抄遊交

「おいおい、楽しんだけれど、社会人になって彼らに話ばかりせず、ちょっと日本を見たら、年1〜2ペースで開催しているか」と。年1〜2ペースで開催しているか。期会でのことだ。二期会に就職した私が30歳を長く過ごし、タリア・ミラリス話に終始して、日本を回っていると感づいている。私はそ

## 日本への助言

もメモを受け取っていた。 USTR時代、私は4人も

に反応できるように、こうすることである。日米同盟とよく比較することは可能か」といった、 較の対象にされる米英間の同 訪日の際、当時の自民党で

まじだ。

## 一言

純